

令和 7 年度第 1 回七尾市部活動あり方検討委員会議事録

開催日時：令和 7 年 7 月 24 日（水曜日）定刻開催

司会：善端 教育部長

出席者：委員 11 名/12 名（多田委員は所用のため欠席）

代理出席：柘植委員代理：田鶴浜スポーツクラブ 内田副会長

小山委員代理：能登島少年少女スポーツクラブ育成会 原田事務局長

【教育長挨拶】

- ・令和 8 年度の休日移行、そして将来的には平日移行を目指し、事務局で案を検討してきた。
- ・今年度に入ってからスポーツ協会との連携を深め、ロードマップや保護者への周知方法、新たなクラブ設立のためのガイダンス等について協議を進めている。
- ・地域スポーツクラブ代表者会議では、受け皿となることへの理解が不十分であったと感じているため、今後は個別の説明も検討していく。
- ・学校側からの情報も得ながら、令和 8 年度からの休日移行を足がかりに、完全移行へ向けて協力を求めている。

【副委員長の選出】

設置要綱に基づき、委員の互選により副委員長を選出。

事務局一任の提案が承認された。

- ・事務局案：大森委員
- ・決定：大森委員が副委員長に就任。

【議事】

議事進行は教育長が務める。

1. 休日の部活動地域移行に向けたロードマップについて

事務局より A3 版ロードマップ案に基づき説明。

意見交換：

* 指導者研修会の内容：前田委員

- ・県の部活動指導員研修内容に沿った形で、半日程度の講習（スポーツ指導者として必要な講義、AED・心肺蘇生法などの応急処置、地域スポーツ指導員の心構えなど）を予定。項目に関する意見を募った。

* 保護者主体のクラブ設置・指導者協力依頼について：小崎委員

- ・新たにチームを立ち上げる場合と既存のチームに呼びかける場合の区別について質問があった。
- ・事務局より、各学校・競技ごとにクラブ立ち上げの意思調査を行い、保護者主体で既に活動しているクラブの促進や、未検討の保護者への働きかけを行う、と説明があった。学校単位のクラブ移行と新しい地域クラブ創出の両方を視野に入れ

ている。

*** ラジオなどお広報の内容について:原田委員**

- ・指導者確保や助成制度を含む内容での発信を求める意見があった。事務局は、具体的な内容は未定だが、提案内容を盛り込む方向で検討すると回答。

*** 文化部（吹奏楽部）の移行について:原田委員**

- ・スポーツ活動に限定した移行が進んでいることに対し、文化部、特に吹奏楽部の対応が後回しになっている理由について質問があった。
 - ・事務局より、資料3の中学校部活動加入状況に基づき、休日活動している文化部が吹奏楽部のみであるため、まずスポーツを優先し、吹奏楽部は練習場所（音楽室のセキュリティ、騒音）、楽器の管理責任・輸送費などの課題をクリアする必要があるため課題としている、と説明があった。
 - ・委員より、七尾吹奏楽団との連携や、文化協会、音楽活動グループへの説明会実施の必要性が指摘された。教育長は、文化協会等と課題解決に向けて協議を進める計画であり、スポーツ移行のノウハウを文化部に活かしたい考えを示した。
 - ・今回の地域移行が、教員の負担軽減だけでなく、七尾市の子育て・まちづくり全体の視点から、子供たちの多様な活動機会を保障するチャンスとして捉えるべきだとの意見が出た。
-

2. 保護者・地域への情報提供について

事務局よりカラー刷りチラシ案と説明動画について説明。

意見交換:

- ・意見や質問は特になかった。
-

3. 地域のスポーツクラブ等運営に向けての支援について

事務局より「地域のスポーツクラブ等運営に向けての支援について（案）」に基づき説明。

意見交換:

*** 指導者への謝金について:堀**

- ・指導者への謝金を市が負担するのか、各団体が負担するのか、基準額はあるのか、質問があった。
- ・事務局より、基本は受益者負担（月謝・年会費）で賄うが、国の動向（認定地域クラブへの公的支援等）を見ながら、運営補助等の何らかの支援を検討する、と説明があった。部活動指導員の単価（1時間 1,600円）が参考になる可能性も示唆された。
- ・委員より、謝金項目を設けることで人材確保に繋がる可能性があるとの意見が出た。

*** 来年度予算要求について:堀**

- ・来年度予算要求の具体的な項目について質問があった。
- ・事務局より、具体的な項目は未定だが、国の認定地域クラブへの法的支援の動向（公共施設の優先利用・無料化、運営補助、教職員の兼職兼業優先許可など）を参考に検討していく、と説明があった。

4. 新たな七尾市の地域スポーツクラブ活動ガイドンス（案）について

事務局より資料1「新たな七尾市の地域スポーツクラブ活動ガイドンス（仮称）」に基づき説明。

意見交換:内田委員

- ・ガイドンスは現状案であり、今後も意見を募集し、見直しを行う。
- ・特に、運営団体・実施主体、指導者、保護者の経費負担の項目が詳細な検討を要する箇所であるとの認識が示された。

5. 今後の展開について

事務局より今後の展開について説明。

意見交換:國下委員、大森副会長

- ・委員より、最終的なゴールは明確だが、そこにたどり着くには多くのハードルがあり、関係者全員の協力が必要であるとの見解が示された。
- ・教員の兼職兼業について、異動後の継続指導の難しさや、学校の平日部活動を誰が担当するのかという課題が指摘された。
- ・部活動の教育的意義は重要であり、今後も若い先生方へ伝えていく必要があるとの意見が出た。
- ・中体連大会ではクラブチームや私学が上位を占める傾向がある現状が共有された。渡久地校長より、4校での説明内容を統一すること、学校の枠を超えたクラブチーム運営における配慮を求める意見が出た。
- ・大森副委員長より、今後の取り組みにおいて、リスクマネジメント（物的瑕疵を含む責任の所在）と、指導者個人のみに依存しないチームとしての指導システムの構築が重要であるとの意見が述べられた。

6. その他

- ・県内の休日の運動部活動地域移行に関する資料が共有された。
- ・スポーツ協会からの協力体制と感謝の言葉があった。